

第5回環境研究機関連絡会成果発表会

「気候変動に立ち向かう～科学的知見、そして対策へ～」 の開催にあたって

環境研究機関連絡会の目的は、環境研究に携わる国立および独立行政法人の研究機関が広範な研究分野の間で緊密に連携して環境研究を推進することであり、毎年1回これまで4回の研究成果発表会を開催してきております。これまでの研究成果発表会では、つくば研究学園都市において、環境に関わる最新の研究成果を発表し、意見交換をして参りました。今回は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次報告書が発行されました機会を捉え、地球温暖化・気候変動に対して我が国の公的な研究機関が社会からの期待に応じてどのように取り組んでいるか、科学的知見から技術的対策までにわたっての研究成果を広く御紹介することを趣旨として、初めて東京で開催することに致しました。

これまでの長い人類の歴史の中で、近年になって初めて、社会の発展・成長には地球規模での環境と資源の有限性が制約条件となることが共通の認識になってきました。特に、地球温暖化と気候変動の問題は、今後の社会・経済の成長のメカニズムが従来のものであれば将来の持続性が懸念される、極めて深刻な環境問題と捉えなくてはなりません。すなわち、これからは社会の様々なセクターがそれぞれの視点だけで目標を追求していくことが難しくなっています。このような状況の中で、科学・技術の研究を通しての知見を社会に提供し、中立の立場で国の政策の立案と実効への貢献に取り組む国立および独立行政法人研究機関の果たすべき役割は益々重要になっていくと認識し、環境研究という広範な分野のそれぞれで使命を担う研究機関が連携を一層に緊密にして社会に貢献していく覚悟であります。今回の研究成果発表会に御参集戴きました皆様の御理解と御指導を賜りますようお願い申し上げます。

独立行政法人 産業技術総合研究所
理事 山 崎 正 和